

110 平面図で解決《聖マタイの召命》

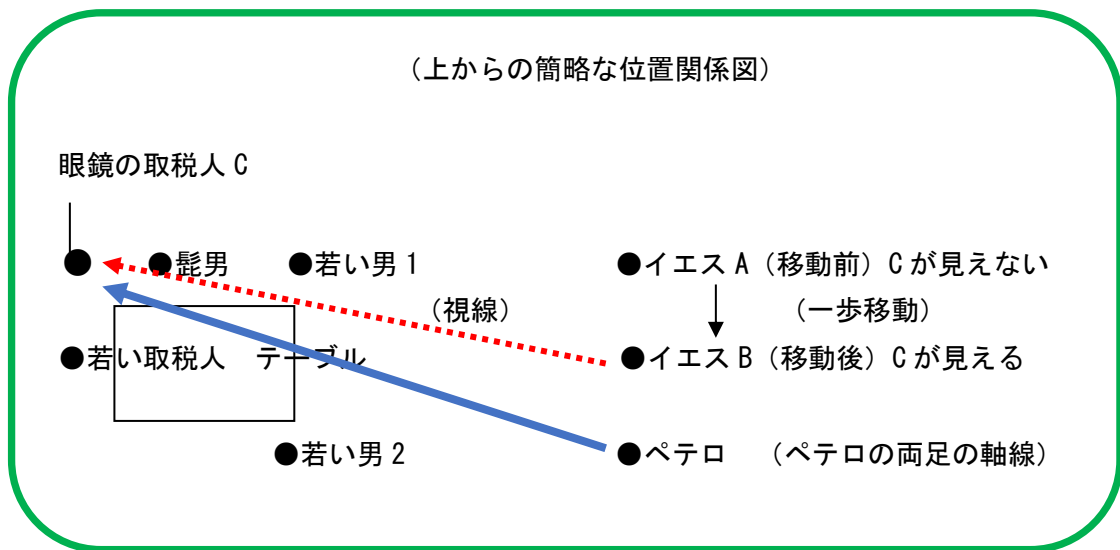
2024

真鍋友範



《聖マタイの召命》1599-1600

1 眼鏡の収税人が、対象人物であることは、平面図で一目瞭然



1 髭男の示す人差し指の方向

【人差し指の方向は、隣の眼鏡の取税人】という解説は、デッサン上あり得ない。

何故なら、若い収税吏は、髭男の右斜め45度前の位置にいる。この場合なら、指は短く描かれる必要がある。カラヴァッジョはそのように描いていないのだ。

つまり、ドイツ学派美術史家の解説は、受け入れられない誤解説だ。

2 質問する髭男の親指

髭男の立てられた親指は、質問の前段階として、「探しているのは、私ですか」の意味。質問の後段階は、「それとも、隣の収税人ですか」、となっている。

その根拠は、カラヴァッジョが同時期に描いた《ロザリオの聖母》にある。



* 右側の聖ドメニコ僧は、右手の親指をまず自分自身に向け、連続して、人差し指を上に向けてながら、天上界のイエスを示している。

ロザリオの聖母の右手は、まず親指をイエスに向け、連続して、人差し指をドメニコ僧に向けている。その意味は、「イエスの教えを、あなたが伝えなさい」の意味となりそうだ。

【カラヴァッジョの描く親指は、人差し指とは別の対象を示す必要があるときに描かれている。】

3 イエスは何故立ち位置を一步分移動したのか

平面図 A のイエスからは、これから呼び出す予定の、机に寄りかかった眼鏡の収税人（マタイ）の顔が、隣の人物たちによって、よく見えていない。

しかし、右足を一步左に踏み出すことで、イエスの立ち位置はイエスの B となる。ここからは、眼鏡の収税人の顔が、はっきり見える。

ここは、画家カラヴァッジョの卓越した画面構成力が読み取れる場面なのだ。

『召命が終わっていないのに、イエスはもう帰ろうとしている』、などと考える誤った学説は受け入れられない。

3 若い男 2 は、ペテロに質問する

若い男の質問に対し、ペテロは、右手を小さく廻して、「向こう側の人だ」と答えている。ここでは誰を示しているのかは、手の動作だけでは、わからない。

しかし、ペテロの両足を見れば、ペテロの意思が誰に向いているかは、解る。

両足の軸線は、平面図にある通り、眼鏡の収税人の足元に向かっているのだから、ペテロは、俯いた若い人収税人に関心を抱いていない。

4 結論

このように、この場面は、平面図を頭の中で、同時に組み立てることにより、カラヴァッジョの画面構成の意図が、立体的に明確に理解できるのだ。